

実用化事例

受託研究

支援先

本場結城紬技術保持会

重要無形文化財結城紬伝承事業のための
絣設計図案作成

【開発の背景】

茨城県結城市と栃木県小山市を中心として生産されている結城紬は、代々技術が受け継がれている伝統的な絹織物の和服地で、国の伝統的工芸品に指定されているほか、その生産技術は国の重要無形文化財にも指定されています。工程は全て手作業によるもので、真綿から手で糸をつむぎ、模様をつける場合は絣括りや絣染色を行い、地機と呼ばれる古来の織機にて織ります。

生産に要する期間は複雑な柄のものになると、糸つむぎから完成まで1年を超えるものもあり、その技術は世界でも守られるべきものとして2010年11月にユネスコ無形文化遺産に登録されています。

本場結城紬技術保持会では、絣柄の織り手の育成のために「伝承者育成事業※」を実施しており、その事業委託を受けた保持会会員が機織研修に取り組んでいます。

※文部科学省からの補助により実施

【開発の経緯・支援内容】

「伝承者育成事業」では、経験豊富な講師と経験の浅い織り手とが指導を交えながら同じ柄を製織します。

今回当所では、研究開発した設計図案作成システムを用いて、本場結城紬保持会から提供された原案を元に、織り手の経験や技量を考慮した絣設計図案を5点作成しました。

【開発した製品の紹介】

現在、今回作成した絣設計図案（図1）を利用し、本場結城紬技術保持会会員が織り手の育成を実施しています。なお、伝承者育成事業によって織られた反物は、本場結城紬技術保持会の事業成果報告や産地内催事で展示される予定となっています。

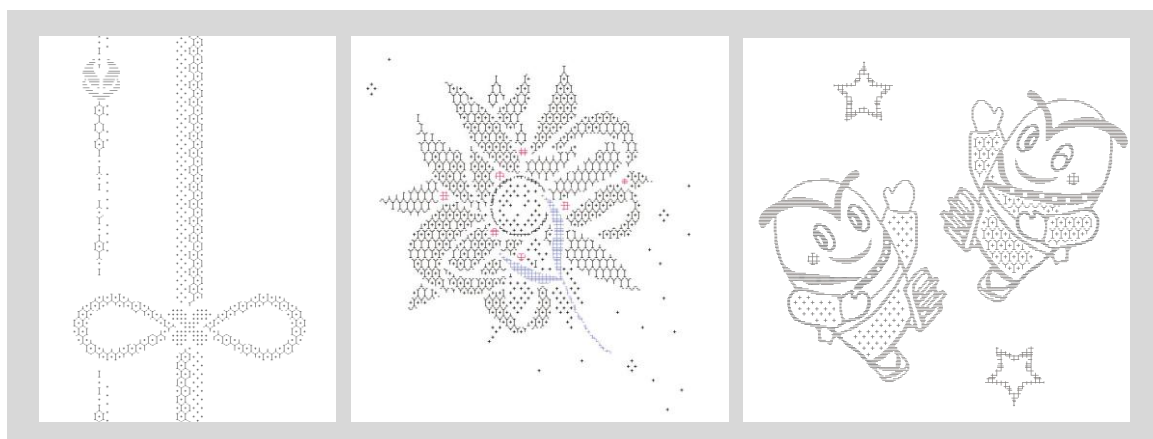


図1 作成した設計図案例（部分抜粋）

基礎となった事業

平成 26 年度 オンリーワン技術開発支援事業（受託研究）

現在の担当部門

紬技術部門

部 門 長

篠塚 雅子

TEL: 0296-33-4154

主任研究員

中野 睦子